

I. 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

わが国の国力の充実と国家意識の高まりを背景に、国史編纂事業が開始された。6世紀⁽⁷⁾に編纂されたとされる『帝紀』や『旧辞』をもとに天武天皇が臣下によりならわせた内容を、元明朝に〔A〕が筆録し、712年に『古事記』が完成した。『古事記』には、神代から推古天皇までの天皇の系譜や、天皇家の伝承が記された。また、元正朝には国家の正史とされる『日本書紀』も編纂された。『日本書紀』は、舍人親王らによって編纂され、神代から持統天皇に至る歴史を、中国の歴史書の体裁にならい、漢文の編年体で書かれていることに特徴がある。『日本書紀』をはじめとする正史の編纂は、最後の班田⁽⁹⁾を実施したといわれている〔B〕天皇の時代まで続けられ、これをまとめて六国史と称した。六国史の記録はのちに遣唐使⁽¹⁾に任命される菅原道真の『類聚国史』によって分類・再整理されたことでも知られている。『類聚国史』は892年に成立した。

六国史の最後となる『日本三代実録』の編纂以降、朝廷による歴史書編纂事業は中絶したが、以後歴史書は主として民間で編纂されるようになった。院政期⁽⁴⁾には、藤原道長の栄華を中心に叙述した『〔C〕』が著された。『〔C〕』は、四鏡の一つとされ、四鏡は平安時代末期から室町時代初期にかけてまとめられた。鎌倉時代に幕府によって著された『吾妻鏡』には、1221年におこった〔D〕の際に、尼将軍と称された北条政子⁽⁵⁾が御家人らの結束を促す演説を行った場面が収録されている。室町時代には、建武の新政で当時の天皇を支えた北畠親房が著した『神皇正統記』によって、南北朝の動乱期⁽⁴⁾における南朝の正統性が示された。北畠親房は、義良親王が長官を務める〔E〕の補佐役であった北畠顕家の父であり、吉野や常陸小田城などで作戦を指揮し、南朝勢力の保持・拡充に努めたことで知られている。

問1 文中〔A〕～〔E〕にあてはまる言葉もしくは人名をそれぞれ選択肢から一つずつ選びなさい。
解答番号は〔1〕～〔5〕。

- A ① 刑部親王 ② 藤原不比等 ③ 太安万侶 ④ 稗田阿礼
- B ① 醍醐 ② 宇多 ③ 村上 ④ 朱雀
- C ① 今鏡 ② 増鏡 ③ 大鏡 ④ 水鏡
- D ① 壬申の乱 ② 宝治合戦 ③ 平治の乱 ④ 承久の乱
- E ① 鎮西奉行 ② 陸奥将軍府 ③ 鎌倉府 ④ 鎌倉将軍府

問2 下線部（ア）に関連して、6世紀の出来事に関する以下の説明として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は〔6〕。

- ① 新羅の聖明王によって、欽明天皇に仏教が伝えられた。
- ② 崇峻天皇を暗殺した大臣の蘇我馬子が、政権を掌握した。
- ③ 中国南朝に朝貢した倭王武が、安東大將軍の称号を賜った。
- ④ 個人の才能や功績に応じて、冠位を与える制度が整備された。

問3 下線部（イ）に関連して、天武天皇の時代に鑄造された錢貨の名称として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は〔7〕。

- ① 乾元大宝 ② 和同開珎 ③ 富本錢 ④ 開元通宝

問4 下線部（ウ）に関連して、口分田に関する以下の説明として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は〔8〕。

- ① 口分田は売買できず、死者の口分田は死後すぐに収公された。
- ② 租税を課すため、口分田は戸を単位として班給された。
- ③ 戸籍にもとづいて、口分田は班給された。
- ④ 口分田は、6歳以上の男女に一定額が支給された。

問5 下線部（エ）に関連して、唐に渡った遣唐留学生のうち、唐の玄宗皇帝に仕えて高官にのぼり、その後その地で客死した人物として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は〔9〕。

- ① 円仁 ② 阿倍仲麻呂 ③ 吉備真備 ④ 空海

問6 下線部（オ）に関連して、白河天皇によって建立された寺院の名称として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は〔10〕。

- ① 法勝寺 ② 法成寺 ③ 法興寺 ④ 法隆寺

問7 下線部（カ）に関連して、北条氏に関する以下の説明として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は〔11〕。

- ① 北条義時は、有力御家人安達泰盛を滅ぼした。
- ② 北条泰時は、評定衆のもとに引付をおいた。
- ③ 北条時頼は、蘭溪道隆をまねいて建長寺を建立した。
- ④ 北条高時は、内管領として竹崎季長を重用した。

問8 下線部（キ）に関連して、南北朝の動乱期に関する以下の説明として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は〔12〕。

- ① 朝鮮半島、中国大陸および南方諸地域の沿岸や内陸で、海賊集団の倭寇が活動した。
- ② 中国では朱元璋が元の支配を排して、漢民族の王朝である明を建国した。
- ③ 嫡子がすべての所領を相続して、庶子が嫡子に従属する単独相続が一般化した。
- ④ 荘園や公領の領主が年貢徴収を地頭に請け負わせる、地頭請が盛んにみられた。

II. 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、1603年に征夷大將軍に就任し、全大名に対する指揮権の正統性を得て江戸幕府を開いた。⁽⁷⁾1615年には豊臣氏を滅⁽⁷⁾ぼし、同年、大名統制法である武家諸法度元和令、朝廷統制法である禁中並公家諸法度を発令した。⁽⁴⁾

江戸幕府の職制は3代將軍徳川家光の頃までに整備されたといわれている。また、家光の時代にはいわゆる鎖国が完成したり、本百姓体制の整備がなされたりするなど、江戸幕府の体制の基礎が整った。⁽⁵⁾

家光の時代までは武断的な政治を行ってきた幕府であったが、家光の死を契機に兵学者由井正雪らを中心とした「A」がおこると、幕府は末期養子の禁止を緩めて、牢人の増加を防ぐ方針をとった。また、殉死の禁止を命じ、主人の死後は殉死することなく、跡継ぎの新しい主人に奉公することを義務付けるなど、4代將軍徳川家綱の時代には、儒学にもとづく文治主義的な政策がとられた。この政治方針は、以降も継続されていく。

5代將軍徳川綱吉は、林羅山が江戸上野忍ヶ岡に設けた孔子廟と家塾を湯島に移し、学問所として整備した。⁽⁹⁾この学問所の初代大学頭には、林鳳岡（信篤）が就任した。綱吉は、1685年以降、約20年にわたり生類憐みの令を出して生類のすべての殺生を禁じたり、服忌令を出して近親者に死者があった時に喪に服する日数を定めたりするなど、死や血を忌み嫌う風潮をつくり出した。6代將軍「B」、7代將軍徳川家継の治世に政治を主導した新井白石も文治主義的な政策を継続させたことで知られる。新井白石は木下順庵の門下で、大義名分論を重視した朱子学者として知られる。新井白石の治世には、幕府によって新たな官家が設置されたり、家継と2歳の皇女との婚約がまとめられたりするなど、天皇家との融和がはか⁽⁶⁾られた。

問1 下線部（ア）に関連して、この年に出された法令に関する以下の説明として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は「13」。

- ① 金銭貸借訴訟の不受理を規定した、相対済し令が出された。
- ② 宣教師の国外退去を命じる、パテレン追放令が出された。
- ③ 大名の居城を一つに限る、一国一城令が出された。
- ④ 蔵宿に貸金の放棄を命じる、棄捐令が出された。

問2 下線部（イ）に関連して、武家諸法度や禁中並公家諸法度に関する以下の説明として正しくないものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は「14」。

- ① 武家諸法度は、原則として將軍の代替わりごとに出された。
- ② 武家諸法度寛永令では、参勤交代の制度化が義務付けられた。
- ③ 禁中並公家諸法度は、金地院の崇伝によって起草された。
- ④ 禁中並公家諸法度に反して、後陽成天皇が紫衣着用を勅許した。

問3 下線部（ウ）に関連して、江戸幕府の職制のうち、旗本・御家人の監察を担った職の名称として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は「15」。

- ① 京都所司代 ② 目付 ③ 武家伝奏 ④ 勘定奉行

問4 下線部（エ）に関連して、鎖国完成までの過程や鎖国完成後の対外関係に関する以下の説明として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は「16」。

- ① 禁教令によって、高山右近らがマニラに追放された。
- ② 島原の乱がおこったあと、イスパニア船の来航が禁止された。
- ③ 清国は、鎖国後も長崎の出島への来航と居住が許された。
- ④ 琉球王国からは、鎖国後も將軍の代替わりごとに謝恩使が派遣された。

問5 下線部（オ）に関連して、家光の時代に出された、本百姓体制を維持するための法令の名称として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は「17」。

- ① 旧里帰農令 ② 分地制限令 ③ 田畑永代売買の禁止令 ④ 人返しの法

問6 文中「A」にあてはまる言葉を選択肢から一つ選びなさい。解答番号は「18」。

- ① 慶安の変 ② 嘉吉の変 ③ 天文法華の乱 ④ 天狗党の乱

問7 下線部（カ）に関連して、5代將軍徳川綱吉時に発達した元禄文化に関する以下の説明として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は「19」。

- ① 西山宗因に学んで談林俳諧で注目をあつめた井原西鶴は、御伽草子を創始した。
- ② 上方では勇壮な演技である和事を得意とした坂田藤十郎が、歌舞伎で活躍した。
- ③ 京都の土御門家に入門した渋川春海が、日本独自の暦である授時暦をつくった。
- ④ 尾形光琳が、俵屋宗達の装飾的な画法を取り入れて琳派を大成した。

問8 文中「B」にあてはまる人名を選択肢から一つ選びなさい。解答番号は「20」。

- ① 徳川家治 ② 徳川家宣 ③ 徳川家慶 ④ 徳川家斉

問9 下線部（キ）に関連して、新井白石に関する以下の説明として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は「21」。

- ① 新井白石は、自身の生い立ちをまとめた『宇下人言』を著した。
- ② 新井白石は、元禄判判の質を下げた正徳判判を鑄造させた。
- ③ 新井白石は、海舶互市新例を出して長崎貿易を制限した。
- ④ 新井白石の治世には、浅間山の噴火などを背景に飢饉が深刻化した。

問10 下線部（ク）に関連して、江戸時代の儒学と儒学者に関する以下の説明として正しくないものを、
選択肢から一つ選びなさい。解答番号は 22。

- ① 知行合一の立場をとった朱子学は、現実を批判してその矛盾を改めようと試みた。
- ② 孔子や孟子の古典に直接立ち返ることを重視した古学派からは、山鹿素行が出た。
- ③ 朱子学者の山崎闇斎は、神道を儒教流に解釈して垂加神道を創始した。
- ④ 陽明学者の熊沢蕃山は、『大学或問』などで武士土着論を説いて幕政を批判した。

問11 下線部（ケ）の宮家の名称として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は 23。

- ① 閑院宮家 ② 有栖川宮家 ③ 伏見宮家 ④ 京極宮家

Ⅲ. 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

1871 年、金本位制を建前とする新貨条例が定められ、新硬貨が発行された。しかし、実際には開港場では銀貨が、国内では紙幣が用いられ、紙幣に関しては太政官札など不換紙幣が主であった。そこで明治政府は旧幕臣の A を中心として国立銀行条例を定めたが、直ちに兌換制度を確立することは困難であった。

兌換制度が確立するのは、1881 年から実施された松方財政時のこととなる。B 藩出身の松方正義大蔵卿（のち大蔵大臣）は、増税によって歳入の増加をはかりつつ、緊縮財政をとった。歳入の余剰で生じた不換紙幣を処分しながら正貨の蓄積をすすめ、銀貨と紙幣価値の差がほぼなくなった 1885 年から銀兌換の銀行券を発行し、翌年には銀本位制を整備した。銀本位制にともなう金本位制国への輸出の増加は、産業革命を迎える下地となった。

1897 年、貨幣法が制定され、C の賠償金の一部を準備金として欧米諸国に模倣した金本位制が採用された。金本位制の採用は、貨幣価値の安定と貿易の振興を促したが、第一次世界大戦のさなか欧米諸国が金本位制を停止するなか、日本も 1917 年に金本位制を停止した。その後、度重なる恐慌を経て、浜口雄幸内閣の蔵相 D は、1930 年に旧平価による金輸出解禁を断行し、外国為替相場の安定と経済界の産業合理化をはかったが、解禁による不況と前年の 1929 年から発生していた世界恐慌のおおりをうけて、日本はさらに深刻な不況に陥った。

1931 年、日本の深刻な不況を打開するため、E を与党とした犬養毅内閣の蔵相高橋是清は、直ちに金輸出再禁止を断行し、金本位制を離脱して管理通貨制度に移行した。蔵相高橋是清が円の為替相場を意図的に低下させ、円安を利用して輸出の増加をはかったことなどを背景に、日本は他の資本主義国に先がけて、1933 年頃に世界恐慌以前の生産水準を取り戻した。このように、日本の景気回復に尽力した蔵相高橋是清であったが、陸軍皇道派がおこした F によって、1936 年に命を落とした。

問 1 文中 A ～ F にあてはまる言葉もしくは人名をそれぞれ選択肢から一つずつ選びなさい。

解答番号は 24 ～ 29。

- A ① 五代友厚 ② 岩崎弥太郎 ③ 渋沢栄一 ④ 由利公正
- B ① 薩摩 ② 長州 ③ 土佐 ④ 肥前
- C ① 甲申事変 ② 北清事変 ③ 日露戦争 ④ 日清戦争
- D ① 牧野伸顕 ② 井上準之助 ③ 団琢磨 ④ 斎藤実
- E ① 革新倶楽部 ② 立憲国民党 ③ 立憲政友会 ④ 立憲改進党
- F ① 二・二六事件 ② 三・一五事件 ③ 四・一六事件 ④ 五・一五事件

問2 下線部（ア）に関連して、松方正義は2度組閣したことで知られる。これらに関する以下の説明として正しくないものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 第1次松方正義内閣時に行われた第二議會では、初めて衆議院の解散が行われた。
- ② 第1次松方正義内閣時に露見した内相の選挙干渉を背景に、同内閣は退陣に追い込まれた。
- ③ 第2次松方正義内閣は、自由党と進歩党が合同して結成された憲政党と提携した。
- ④ 第2次松方正義内閣は、外相として大隈重信を入閣させ、軍備拡張を実施した。

問3 下線部（イ）に関連して、産業革命が進展するなか、1887年に特殊銀行となった銀行が貿易の金融にあたった。この銀行の名称として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 日本勸業銀行 ② 日本興業銀行 ③ 台湾銀行 ④ 横浜正金銀行

問4 下線部（ウ）に関連して、1917年に出版された河上肇の著書の名称として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 『貧乏物語』 ② 『善の研究』 ③ 『赤い鳥』 ④ 『羅生門』

問5 下線部（エ）に関連して、1920年代の恐慌に関する以下の説明として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 輸入超過のなか、株式市場の暴落を口火に欧米に先んじて戦後恐慌が始まった。
- ② 関東大震災で生じた震災手形を処理するため、国立銀行が特別融資を行った。
- ③ 若槻礼次郎首相の失言を背景に取付け騒ぎが全国化する、金融恐慌がおこった。
- ④ 金融恐慌を鎮静化するため、田中義一内閣時には重要産業統制法が出された。

問6 下線部（オ）に関連して、浜口雄幸内閣時には海軍に関わる国際会議が開かれた。この会議の内容とその影響に関する以下の説明として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 太平洋問題に関する四カ国条約が締結され、日英同盟協約の廃棄が同意された。
- ② 軍縮条約が締結され、主力艦の保有量比率と主力艦の建造禁止期間が定められた。
- ③ 会議の全権として、海相加藤友三郎や駐米公使幣原喜重郎が参加した。
- ④ 会議で締結された条約を背景に統帥権干犯問題がおこったが、同条約は批准された。

問7 下線部（カ）に関連して、『日本改造法案大綱』の著者で、陸軍皇道派に影響を与えた人物として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 美濃部達吉 ② 吉野作造 ③ 北一輝 ④ 大川周明